

第13回「戦争と医の倫理」の検証を進める会 世話人会会議報告

- ◇日時 2011年10月2日(日)11時～13時 各班会議、13時30分～17時 全体会議
- ◇場所 全国保険医団体連合会 6階(4階)会議室
- ◇参加者 赤羽根巖、西山勝夫各代表世話人、苮昭三、小俣和一郎、肥田泰、光石忠敬、山口研一郎、吉中丈志各常任世話人、岡田朝志、刈田啓史郎、近藤昭二、末永恵子、松村高夫、村林彰各世話人
(事務局) 遠藤隆、相場康文、木村徳秀、原文夫、室井正、小林耕治、師岡聡各氏。

◇各班会議 11時～13時

A班(歴史検証)、B班(国際シンポ)、C班(医療倫理)別に分かれて会議を行った。

◇全体会議 13時30分～17時

◇議長 西山代表世話人

◇報告及び協議事項

1. 第12回各世話人会(11.7.10) 会議報告の確認について

事務局より、第12回各世話人会(11.7.10) 会議報告の説明がありました。

2. パネル集(案)の検討について

事前配布資料の「パネル集『戦争と医の倫理』」、及び「C班の資料作成案」に基づき、事前に寄せられた意見等をふまえ、各パネル案について表現の修正や資料の差し替えなどについて討論を進めた(意見等の詳細は、会議資料参照)。

討論では、松村世話人より、731部隊で細菌戦攻撃を裏付ける新資料(731部隊員金子順一が東大に提出した博士論文)が発見され、近日には公表予定であることなども報告された。

その上で、出された修正等の意見にもとづき、事務局がパネル案を整理して各起案者に送付。各起案者が確認した上で、11月上旬には、改めて「パネル修正案」を世話人会構成員・事務局に事前に送付し、意見を集約しながら次回世話人会(11月23日)でさらに検討することとした。

なお、「C班の資料作成案」については、「第5部(医療倫理)各パネル案」の表現等の修正案ではなく、第5部の総論的な意見であることから、担当責任者の山口常任世話人が対応方法を検討することとした。

3. 今後の検証活動に関連した情報や動きについて

今後の検証活動に関連し、最近の動きとして下記の報告が行われた。当会の今後の活動に反映させ、あるいはその動向を注視していくこととした。

(1) 日本版「医学教育基準」作成の動きについて

「日本医学教育学会が、世界基準に準拠した日本版『医学教育基準』の作成に乗り出す」ことが、日医FAXニュース(11.8.23)、及び「メディファックス」(11.8.19)で報道された。その背景には、米国が米国医科大学協会または世界医学教育連盟が決めた医学教育基準に認定されない外国の医学部卒業生には米国の医師資格試験への受験を認めないと宣言したことがある。この医学教育基準に「医の倫理教育」がどう位置づけられるか注視していく必要がある。

(2) ドイツ精神医学精神療法神経学会の「謝罪表明と追悼式典」について

日本精神神経学会の「精神神経学雑誌」（113巻 - 8号：2011年）に、ドイツ精神医学精神療法神経学会は2010年総会で、ナチス時代に「ドイツ精神医学」の名の下に強制断種などで被害や殺害を受けた犠牲者への謝罪表明を行ったこと。及びその追悼式典でフランク・シュナイダー会長の談話「ナチ時代の精神医学-回想と責任」（邦訳）が掲載されたことが報告された。

約70年を経て学会として初めての公式な謝罪表明であり、犠牲者への追悼式典には3,000人の精神科医が参加したと報告されている。

こうしたドイツ学会の謝罪表明は、当会の検証活動を励ますものであり、日本の医学会（界）も同様の謝罪を行い、今後の医療や医学において過ちを繰り返さないことを表明する重要性を示している。当会としてもドイツの学会が公式表明に至った教訓などを学び、今後の活動に生かす必要がある。

(3) 中国・日本軍731部隊罪証陳列館「学術通信」の記事について

表題の「学術通信」に、当会が進めている「医学教育に関するアンケート」に協力して、中国での戦争と医学に関する医療倫理教育のアンケートを実施し、対象104校のうち23校から回答（回収率22%）されたことが掲載されている。今後も連携して進める。

4. 今後のパネル展示や国際シンポなどの企画について

国際シンポ担当で検討した今後の方向について、下記の提案があり具体化を確認した。

(1) 次の3つの方向で検討

① IPPNW 広島大会（12年8月24～26日、広島）に向けて

「ワークショップ」として、「戦争と医療」「核戦争と医療」などで申請を考える（申請の仕方は工夫する）。その場合、バスチアン氏に IPPNW ドイツ支部としてこのようなワークショップの検討ができないか、また、IPPNW 広島大会に参加の意向なども照会する。（「反核医師の会」ではワークショップ申請を準備している）

② 保団連医療研究集会との関連での準備

保団連医療研究集会（12.10.13～14. 都市センターホテル）での代表パネル展示。明治大学展示場での展示（12.10.13～21）の検討。

③ 京都大学での展示と国際シンポ開催の準備

* 次期医学会総会も視野において、京都大学で展示とシンポを準備する。

* 予定の時期は、国際シンポ 12.10.27～28 パネル展示 12.10.27～11.3 で可能か検討
ドイツ=DGPPN フランク・シュナイダー会長、米国、日本などの代表。日野原先生の冒頭挨拶

* 立命館大学国際平和ミュージアム館とも連携しての活動

※以上の準備を進めつつ次期医学会総会に向けた準備

* 京都の著名な方々の世話人会への参加呼びかけ（京大、府立医大、医師会、協会、民医連など）

* 当会の活動の基盤を京都（関西）に置くための組織的な協力をお願い。

(2) 上記の参考資料

① IPPNW の「原発被曝から健康を守る」日本政府宛の書簡、② IPPNW 広島大会の準備状況について、関連資料が紹介された。

5. その他

次回の世話人会開催 11月23日（水・祝）10：30～16：00 保団連会議室

以上